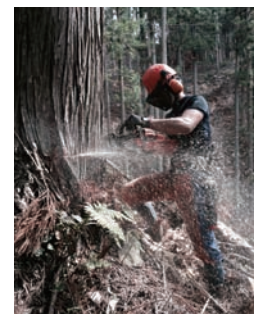




浜松市の森林の約40%がFSC®森林認証を取得している。FSC認証とは、ドイツのボンに本部が置かれるForest Stewardship Council®(森林管理協議会)が運営する国際的な制度。世界中の森林を対象に、国際的に統一された基準に沿って、その優良さ(森林の管理が適切に行なわれているか、経済的にも継続可能な森林か、など)の審査・認証を行い、合格した森林のみが「FSCの森林」に認証される。



浜松市北部の山間地域には、「天竜美林」と呼ばれる美しい森林が広がっている。多くの人の手によって守られてきた美林だが、林業の衰退により多くの問題を抱えているのも事実。そんななか、林業を支え、継承している職人たちがいた。

ようこそ、天竜美林へ

日本三大人工美林のひとつ、緑豊かな美しい森林

浜 松市は、約10万ヘクタールもの森林を有する森林大国で、森林が地域の約7割を占めている。「天竜美林」と呼ばれる森林は、人の手によって植えられた人工林が多く、日本三大人工美林と称され、スギやヒノキなど国内有数の良質木材が産出される地域である。

浜松市での植林の歴史は古く、始まりは1469年頃といわれ、時代ごとに植林・伐採が行われてきた。現在の天竜美林の基礎は、明治時代、治山治水のための植林活動に尽力した、金原明善の功績によるものが大きい。

美しい景観をもたらす森林には、木材の生産機能のほか、人の生命や生活に関わる大切な役割がある。洪水や土砂崩れなどの災害を防ぎ、暮らしに欠かせないきれいな水や空気を作り出す役割だ。そして、安らぎや憩いを得る場、文化を創造する場としても機能している。昔から森林は、私たちの生活と深く関わり、多くの価値を与え続けてきた。

ふるさとの宝を守り育てる 若き集団

そんな森林の大切さを伝えようと、浜松市を中心に活動する集団が「TENKOMORI(てんこもり)」。天竜のこれからの森を考える会。地元林業関係者、製材業者、山林所有者、大工、県職員など、木にかかわる職業の若者たちが構成されている。会長の大塩さんはこう語る。「人工林を守るためには、計画的な伐採と植林のサイクルが



※日本三大人工美林…天竜美林(静岡県)、尾鷲美林(三重県)、吉野美林(奈良県)



市内小中学校での出前講座を中心に、遊園地やイベントでの木工教室などを開催。2014年6月には林業をテーマにした映画「WOOD JOB!」とコラボし、監督・矢口史靖氏の舞台挨拶・上映会を地元の映画館で行った。

TENKOMORI 事務局
☎ 053-457-2159 (浜松市農林業振興課内) <http://tenkomori2007.jp/>

必要です。木を植え育て、守り、そして木材を使う。これが、林業という産業を続けていく基本です。TENKOMORIの主な活動は、市や県からの要請を受けて、幼稚園から高校で行う「出前講座」や山で開催するイベントの企画・運営。次世代を担う子どもたちに向けて「天竜美林の大切さ」を伝えていく活動である。「ほとんどの子どもたちは、木を切ることは悪いことだと思っています。そんな先入観をなくし、森林の働きや山の仕事に触れてもらうことで、木を使っていく大切さを知ってほしいです。講座では学校の体育館にスギやヒノキの丸木を持ち込み、実際に木に触れて香りを感じてもらおう。チェーンソーを使ってダイナミックな実演をすることもあり、間近で見る「木こり」の姿に、多くの子どもたちは歓声を上げるそうだ。

林業を取り巻く環境は、木材価格の低迷に加え、林業従事者の減少など厳しい状況が続く。先人たちが築き上げてきた森林を守るためには、地域が一体となり、将来を担う子どもたちへの教育が欠かせない。次世代へ引き継ぐことこそ、山の未来をつくること。若手林業家たちの活動は、一歩ずつではあるが林業の活性化へとつながり、この街の、そしてこの国の財産となる森林づくりに貢献している。

明善の意思を受継ぎ 現代に残す職人

片桐鍛冶店 職人の逸品



柄を取り付ける前の「金原鎌」。大型になるとカブが浅くスリムになる。催事でよく売れるという出刃包丁(3,500円～)は「長切れる」のが特長。料理人をはじめ、主婦層のファンも多い。

☎ 浜松市天竜区佐久間町大井2444-4
☎ 053-964-0146



Welcome to TENRYU BIRIN
片桐鍛冶店
片桐保雄さん
【かたぎり やすお】



カ ーリン、カーン、カーン。佐久間町、西渡集落に響き渡る、軽快かつ乾いたリズムの金属音。年季の入ったハンマーを一心不乱に振るのは、鍛冶職人歴約70年になる片桐さんだ。「とにかく時間との戦い。もたもたしていたら鋼が弱る」。そんな言葉を発しながら一人黙々と作業をこなしている。

昭和5年、父親の久太郎さんが開業した頃は、町内に数件存在した鍛冶屋。しかし現在は、片桐鍛冶店のみとなった。主に手がけてきたのは、山仕事で使われる鉈(なた)や鎌。片桐さんは、天竜美林の功績者・金原明善が作らせた造林鎌(金原鎌)の伝統を唯一受け継ぐ名人としても知られている。切れ味、使いやすさが高評価を得て、次第に各地に普及していった金原鎌だが、近年は林業の低迷により注文が激減。それでも、包丁や鉈、のこぎりなどの主力商品とともに、根強い金原鎌ファンからのオーダーに応えている。「時代が変われば作るものも変化する。私はただ、良質なものを作り続けるだけ」。こだわりがあふれる名品からは、職人魂が感じられた。

TENRYU BIRIN STORY

生涯を山と川に捧げた、治山治水の父

金原明善【きんばらめいぜん】

天竜美林の歴史に大きな功績を残した郷土の偉人・金原明善。「川を治めるには、山を治めること」の信念から、生涯をかけて植林事業を行ない、天竜川の治水に生涯を捧げた人物だ。

江戸時代後期の1832年(天保3年)、天竜川の下流にある安間村(現東区安間町)に生まれた明善は、暴れ天竜と呼ばれる天竜川の洪水を自ら経験し、被害の大きさを目の当りにしてきた。そこで、名主であった明善は私財を投じ、国を動かして護岸工事に着手した。明治18年には上流の北遠地域の植林を開始し、生涯でスギとヒノキを約298万本献植、私有林には401万本を植林した。日本を代表する人工美林の礎を築き、その後も、各地で森林づくりの指導を行い世のため人のために尽力した明善。人生の幕を閉じる92歳まで愛し続けた森林は、今なお生長を続け、一部は記念林や学術参考林として残されている。



明善が最初に植林した天竜区佐久間町の森には、明善神社が祀られている。



東区安間町に残る金原明善の生家。土台や柱・梁を残しつつ2011年に改修され、無料で一般公開されている。貴重な資料や遺品から、明善の揺るぎない信念と挑戦の歴史に触れてみよう。
【金原明善生家】
浜松市東区安間町1 TEL.053-421-0550 入館料無料